

春の日のクマは好きですか？

2006(平成18)年5月12日宣伝用ビデオ鑑賞

★★★



監督＝ヨン・イ/出演＝ペ・ドゥナ/キム・ナムジン/ユン・ジヘ/ユン・ジョンシン/
オ・グァンノク/イ・オル/イ・ジウォン (アット エンタテインメント配給/2003年韓国
映画/98分)

……一風変わった主人公の女の子ヒョンチェは、あの『リンダ リンダ リンダ』(05年)のボーカル役のソンちゃんことペ・ドゥナ。美術書に書き込まれた愛のメッセージに、女友達と共に一喜一憂、右往左往するヘンな物語は、メルヘンチックでもあり、いかにもペ・ドゥナにピッタリ……。それにしても、身近でいつも見守ってくれる大切な男性を軽視するのはよくあること。しかし、いつかはそれに気づかなければ、大損をこくことに……。さて、ヒョンチェの場合は……？

宣伝用 VTR の借用にて

この映画は、5月9日に東映試写室で『バルトの楽園』(06年)の後に試写をやっていたものだが、どうしても時間がとれなかったうえ、2度目の試写である5月19日も遠方への出張があるため、観ることができなかったもの。すると、そんな私がよほど残念そうな顔をしていたらしく、宣伝会社の女性が親切にも「宣伝用のVTRがあるのでお送りしますよ」と言ってくれたため、自宅でこれを観ることに。古い映画を録画したVTRを観るのではなく、新作の宣伝用のVTRだから、「試写室並みに集中して観なければ……」と決心して観たが、それでも途中寝っころがりしながら観たから、監督や俳優陣たちには失礼だったかも……？

一風変わった女の子は、あの「ソンちゃん」……

「ソンちゃん」というのは、大ヒットした日本映画『リンダ リンダ リンダ』

(05年)の登場人物。花の学園祭で、ブルーハーツの『リンダリンダ』を歌って弾けた女子高生バンドの中で、ボーカルを担当していた、あの韓国からの留学生ソンちゃんのことだ。私は、ソンちゃんを演じたペ・ドゥナは、26歳とちょっと年が行き過ぎているため、ミニスカートの女子高生姿には少し無理があると指摘した(『シネマルーム8』161頁参照)。しかし、この映画では、このペ・ドゥナが演ずる、スーパーに勤める夢見がちで一風変わった女の子ヒョンチェの役は、まさに適役! あまり美人すぎるとこの映画のヒロイン(?)のヒョンチェ役は無理だし、逆にあまりバラエティー色が強まると、ピュアな恋の展開に水を差すことになる。したがって、このヒョンチェ役には、『猟奇的な彼女』(01年)における「彼女」役にチョン・ジヒョンがピッタリだったように、ペ・ドゥナがいかにピッタリ……。

想像力たくましいヒョンチェだが……?

この映画は半分おとぎ話と理解して観た方がよさそう。あまり真面目に考えながら観ていると、毎晩ベッドの上で頬杖をついて寝っころがりながら、ヒョンチェの頭の中に浮かんでくるとんでもない想像の世界が突如スクリーン上に登場すると、バカバカしくなってくるかも……。デートの席上「どうしても君と結婚することができない」、その理由は「君は人間じゃなく、クマだから」と言われた途端、ヒョンチェはぬいぐるみを着たクマの姿に……。こんなヒョンチェの空想の世界は、風変わりな女の子にはよくあるもの(?)かもしれないが、オッサンたちはこれに容易についていけないのが道理……?

男にもてない理由の分析は……?

ヒョンチェはスーパーのレジ係をしているごく普通の女の子。しかし、恋に関しては少しピントがズレているらしく、いつも振られてばかり。デートで行った映画館の中で、隣の女の子がボリボリとモノを食ったり、しゃべりかけてばかりされると、男はイヤになってくるもの……? しかし、どうもそれがヒョンチェにはわかっていないようで、なぜ自分がいつも男から振られるのか全然わかっていないから始末におえないもの……? そんなヒョンチェの男にもてない理由の

分析をするのが、同じスーパーに勤めている友人のミラン（ユン・ジヘ）。しかし、いくら検討してもその原因はよくわからず、「あんた、何か致命的な欠陥があるんじゃないの……」と指摘される始末……？

ヴィンセントとは一体ダレ……？

そんなヒョンチェの前に突然現れた（？）のが、架空の男ヴィンセント……？ヴィンセントとは、ヴィンセント・ヴァン・ゴッホの美術書からミランが勝手に名づけたもの。それは、ヒョンチェが父親の頼みに応じて図書館から借りてきた分厚い美術書の絵の下に、すばらしい愛のメッセージが書きこまれていたから。もちろん、それがヒョンチェに宛てられたものかどうか自体もわからないのだが、「私宛てに違いない！」と直感するのが、女一流の、そしてヒョンチェの取り柄。さて、こんなヴィンセントとは一体ダレ……？

ドンハは本当にいい奴……

一風変わったこの恋愛映画で、ヒョンチェのお相手（？）となるのは、映画出演2作目となるキム・ナムジン演ずるドンハ。地下鉄の運転手（予備）をしている飄々とした、ちょっと頼りなさそうな今ドキの若者のドンハは、幼なじみのヒョンチェを追ってソウルにやってきた。地下鉄の乗客に車内放送をしていたドンハの声を、地下鉄に乗っていたヒョンチェが聞きつけたのだから、きっとこの2人は縁があるはず。そう考えたドンハだったが、ヒョンチェはヴィンセントに夢中で、ドンハのことなど全く目に入らない様子。いつもすぐ側でヒョンチェを見守っていることにかけては、ドンハは決してヴィンセントにも引けをとらないと自負していたが……？

父親も少し怪しげ……

ヒョンチェの父親は小説家。今、その小説が書店に並んでいるとのことだが、いかにも「自由人」気取りで、「タバコをやめろ」という娘の忠告も聞かないまま入院となった病院から娘に注文するのは、図書館から美術書を借りてきてくれということ。「小説家は何でも知っておかなければ……」と弁明（？）している

ものの、どうもそれは怪しげ……？ そんな父親が心惹かれている女性が、耳と口に障害をもつ美しい女性ソノク（イ・ジウォン）。ひょっとして、ヴァインセントとはこの父親……？ もしそうなら、父と娘との恋愛はヤバいのでは……？

図書館司書にも可能性が……

書きこまれた愛のメッセージには、いつも彼女の姿をすぐ近くで見ているという文言が……。そして、図書館の中で本を探しているヒョンチェをいつも見つけることができるのは、図書館司書のチソク（ユン・ジョンシン）……？ そう確信したヒョンチェは、何とかクマの大好きなチソクとのデートに成功したが、どうもチソクはだたのクマおたく……？ 他方、返却期限を過ぎても返されていない美術書があると聞いたヒョンチェは、その本の借り主こそがヴァインセントではないかと考え、ミランの協力を得てある行動をとったが……？ 果たして、ヒョンチェのこんな努力は報われるのだろうか……？

ヴァインセントはひょっとしてドンハ……？

愛のメッセージは、遂に「僕の姿を君の前に明かそう」という文脈になってきた……。期待に胸を躍らせたヒョンチェが図書館の中で見つけたのは、何とドンハ。あのドンハがヴァインセント……？ そんなバカな……？ そうだとしたらドンハは一体何のために……？ しかし、そこで語られたドンハの言葉とは……？

公共心の薄さ、韓国人 VS 日本人

国会では今、教育基本法の改正が実現するかどうか注目されている。その改正を必要とする最大の根拠は「愛国心」の問題だが、それと同時に公共心の喪失も大問題。電車の中で座席を譲らない、人前で平気で化粧をする等々の問題は、家庭教育と学校教育の劣化という実情と密接に結びついた「公共心の欠如」という問題。韓国には「軍隊」が存在し、若者には徴兵の義務があるから、韓国人の愛国心はすごく強いし、公共心も強いと思っていたが、この映画を観る限り、図書館から借りる立派な美術書の中に書き込みがなされている……。といっても、それは①ギュスターヴ・カイユボットの「窓辺の若い男」、②フランシスコ・

デ・ゴヤの「裸のマハ」、③オーギュスト・ルノワールの「イレーヌ・カーン・ダンヴェール嬢」の絵の下に書かれた美しい愛のメッセージだから、これを読んだヒョンチェをメロメロにしてしまう力を持った文章。しかし、それでも、図書館の本の中に書き込みをするのは公共心の欠如がなせるワザで、本来あってはならないこと。果たして、公共心の薄いのは、韓国人の方それとも日本人の方……？

よーく集中してスクリーンを……

この映画のメインテーマ(?)は、ヒョンチェとドンハとの恋の行方のはずだが、それを邪魔するのがヴィンセントの存在。したがって、この映画では、ヴィンセント探しのミステリー(?)にかなりのウエイトが……？そして実は、ヨン・イ監督が描くこの風変わりな物語の中でホンモノのヴィンセントを見つけ出すのは結構難しい作業……。素直に告白すれば、実は私も1度目に寝っころがりながら観た時は、ヴィンセントは誰なのかよくわからなかったため、5月26日にもう1度ビデオを観直した結果、はっきりしたもの……？もちろん、試写会場でしっかりと観ていたならそんなことはなかったはずだと確信しているが、あなたもヴィンセント探しのためには、よーく集中してスクリーンを……。

ヒョンチェとドンハの恋の始末は？

ヒョンチェの気持が、美術書にすてきな愛のメッセージを添えて送ってくれる「ヴィンセント」に奪われていることを知りながら、それでもじっとヒョンチェを見守り、「愛してる」と言い続けるドンハの辛抱は大したもの……。ところが、ヒョンチェはそんなドンハに見向きもしないばかりかドンハを友人のミランに紹介する始末。これでは、ドンハはやってられないはず……？

したがって、「俺ならこんな女はさっさと見限って……」と思うのだが、それでもドンハは……？私は少しイライラしながら2人の恋の行方を見守っていたが、やがてある時、決定的な別れが……？ドンハは本当にいい奴なのに、と少し悔しく思っていると、実は最後にはやはりいいことが……。果たして、この2人の風変わりな恋の結末とは……？

2006(平成18)年5月27日記